

ITTA KAWAMACHI PROJECT



板橋区かわまちづくり基本構想

令和6年1月29日

板橋区

目次

1	かわまちづくり支援制度への登録	… 1
2	魅力的な荒川河川敷	… 2
3	板橋区かわまちづくり計画	… 3
4	板橋区かわまちづくり計画のコンセプト	… 4
5	推進体制及び今後のスケジュール	… 5
6	板橋区かわまちづくり基本構想の概要	… 6
7	第1期かわまちづくり整備 (令和4年度から7年度)	… 7
8	第2期かわまちづくり整備 (令和7年度以降)	… 8

荒川河川敷の位置



- ①高島平駅から新河岸陸上競技場まで、徒歩で約20分
 - ②西台駅から荒川戸田橋陸上競技場まで、徒歩で約15分
 - ③西台駅から生物生態園まで、徒歩で約25分
- 駅から荒川河川敷までの交通アクセスについて検討します。

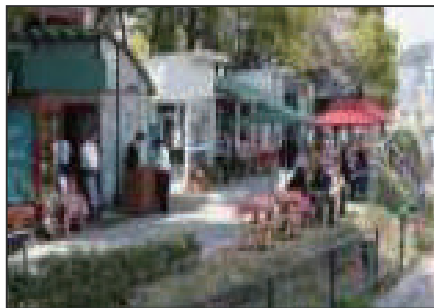
1 かわまちづくり支援制度への登録

① かわまちづくり支援制度

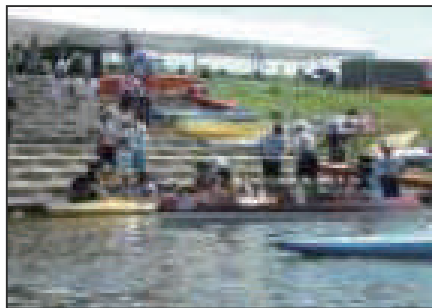
「かわまちづくり」とは、市区町村や民間事業者、地域住民等と河川管理者が各々の取組を連携することにより、河川空間とまち空間が融合し、にぎわいあるまちづくりによる地域活性化に資する良好な空間形成を目指す取組を言います。国土交通省では、「かわまちづくり」の支援として、「かわまちづくり支援制度」を実施しています。

【かわまちづくり事例】

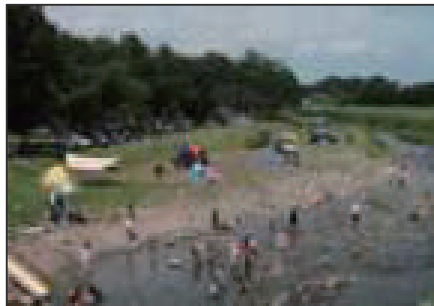
オープンカフェ



カヌー・SUP



キャンプ・バーベキュー



環境学習・自然体験



② 区の取組

区では、荒川に関する施策として「災害に強い首都『東京』形成ビジョン」において、モデル地区に指定された舟渡・新河岸地区の避難場所確保等に関する検討に取り組むほか、誰もが親しめるスポーツ環境の整備等に取り組んでいます。

区は水害時における地域防災力の向上や河川敷の利活用による「板橋区かわまちづくり計画」を申請したところ、その必要性、実現可能性が高いと判断され、令和3年8月20日に、「かわまちづくり支援制度」に登録されることとなりました。



2 魅力的な荒川河川敷

板橋区を流れる荒川は、明治末期の2度の大水を契機として洪水からまちを守るためにつくられた人工の放水路ですが、完成して約100年経った現在では人工のものとは思えないほど、ひとつの風景として地域に定着し親しまれています。

荒川河川敷は、極度に都市化された板橋区内にあって、残された貴重な空間として、自然に触れ合える場、レクリエーションを楽しめる場、地震時の避難場所など、多面的な利活用が求められています。

また、全長約4.3kmに及ぶ広大なオープンスペースでもある区内荒川河川敷は、野球場等の多くのスポーツ施設があるとともに、「板橋Cityマラソン」の会場となるなど、スポーツの拠点となっています。さらに、夏の「いたばし花火大会」などのイベントにも活用され、区民に親しまれています。

この魅力的な荒川河川敷を、板橋区のブランドとして創造・発信するとともに、交流人口の増加やにぎわいの創出につながる水辺空間を形成するために、「板橋区かわまちづくり計画」を進めていきます。

【荒川及び河川敷】



【自然地(生物生態園)】



③ 板橋区かわまちづくり計画

① 板橋区かわまちづくり計画の目的

古くから培われた地域の歴史や文化、区民生活とのつながりなど、荒川河川敷にはその地域特有の資源が眠っています。

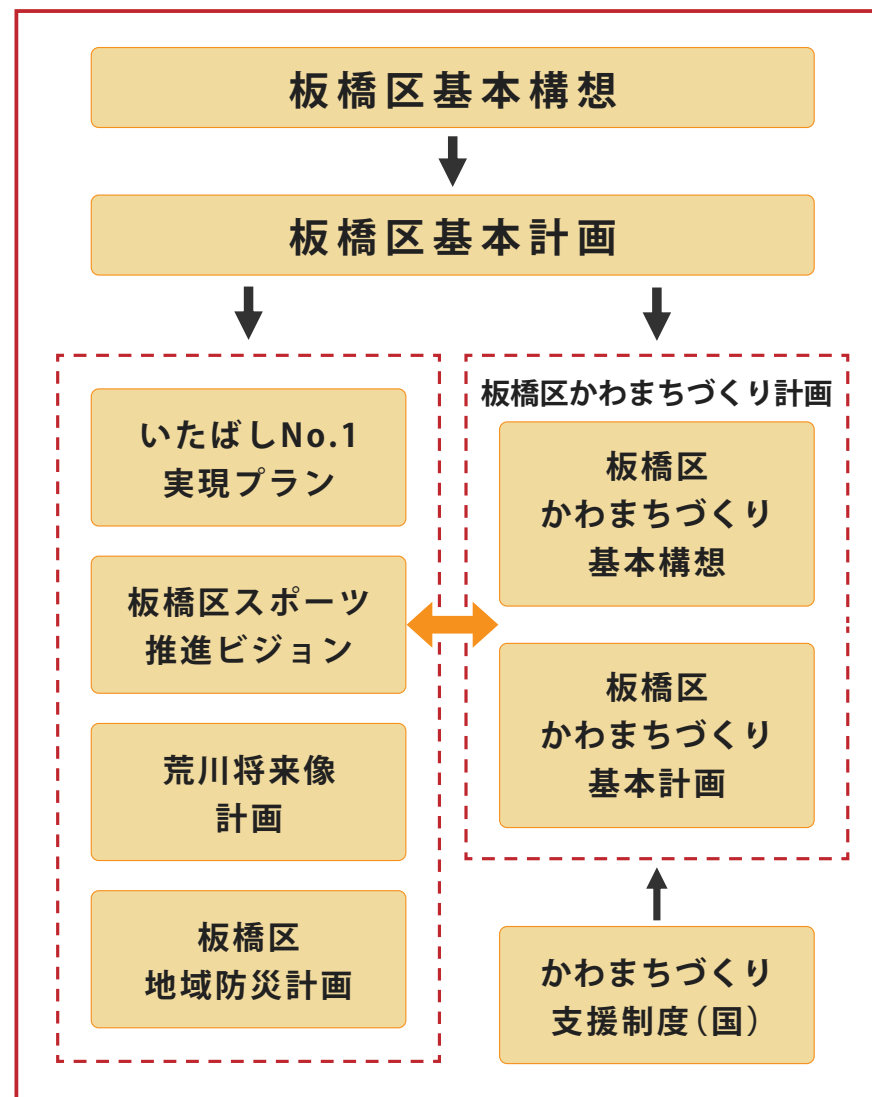
また、水辺はその使い方によって新たな価値を生み出す大きな可能性を秘めています。

板橋区かわまちづくり計画では、荒川河川敷が区民に愛され、そして「誇り」となるとともに、多くの区民が集い、「にぎわい創出」につながる水辺空間の形成を目指します。

また、板橋区はこの取組に防災の視点を採用し、「災害に強い首都『東京』形成ビジョン」のモデル地区に指定された舟渡・新河岸地区の水害対策を目的とした整備も行います。

詳細については、令和6年度に策定する「板橋区かわまちづくり基本計画」で決定します。

② 板橋区かわまちづくり計画の位置付け



4 板橋区かわまちづくり計画のコンセプト

自然体験型アーバンリバーパーク

Ⅰ スポーツ・文化
スポーツ・カルチャー
イベント発信の場

Ⅱ 水辺のにぎわい
水辺における
屋外体験の場

Ⅴ 防災
水災害時に
命を守る場

Ⅲ 自然・環境
生物多様性を
学べる場

Ⅳ モビリティ
テーマパークのような
モビリティ体験の場

Ⅰ スポーツ・カルチャーイベント発信の場

世界陸連認証の「板橋Cityマラソン」や音楽フェスティバルなど、スポーツ・文化の魅力を発信するイベント等が荒川河川敷には数多くあります。河川敷の特徴を生かした取組を展開し、誰もが安全にスポーツを楽しめ、文化芸術に触れる機会を創出するとともに、スポーツ・カルチャーイベントを広く発信します。

Ⅱ 水辺における屋外体験の場

板橋区の夏の風物詩「いたばし花火大会」の会場となっている荒川河川敷は、たくさんの人が訪れ、にぎわい・交流の拠点となるポテンシャルがあります。河川敷に親水広場などを整備し、ここでしかできない水辺における屋外体験ができる場とするとともに、「寄って・観て・遊べる」水辺のにぎわいを創出します。

Ⅲ 生物多様性を学べる場

人と環境とが共生する都市「エコポリス板橋」として先進的な取組を行ってきた板橋区では、荒川河川敷の自然環境は重要な役割を果たしてきました。豊富な緑や河川環境を生かすことで、人々が集まり、遊び・体験しながら生物多様性について学ぶことができる機会を創出します。

Ⅳ テーマパークのようなモビリティ体験の場

広大な自然が広がる荒川河川敷内を歩きやすくするため、親水プロムナードを整備します。また、河川敷内を気軽に移動できるようにするため、ミニトレインなどの新たなモビリティの検討を行うとともに、可動式コンテナを活用し、まるでテーマパークのようなモビリティを体験できる場とします。

Ⅴ 水災害時に命を守る場

新河岸陸上競技場は、水害想定時に「命を守る場」として、緊急一時退避場所となります。新河岸陸上競技場からの脱出ルートを確認するため、連絡通路等を整備します。また、震災時には、荒川の水路が活用できるよう、物資が輸送できる拠点の整備を図ります。平常時には河川敷の資源を有効に活用し、防災意識啓発・防災教育の充実を図ります。

5 推進体制及び今後のスケジュール

① 板橋区かわまちづくり計画の推進体制

・「板橋区かわまちづくり基本構想」の策定にあたり、コンセプトアートの作成を、区内在住で区にゆかりのある「水戸岡鋭治氏」の協力のもと進めてきました。

・「板橋区かわまちづくり基本計画」の策定についても、全国でさまざまな事業を成功させてきた水戸岡氏に総合的な監修をしていただきます。

・板橋区かわまちづくり計画を推進するため、担当組織を新設するとともに、事業実現性の観点から、事業者とのヒアリングを実施します。

② 板橋区かわまちづくり協議会

荒川の河川空間と板橋区のまちの空間の一体的な活用を図り、板橋区、地域住民、事業者、河川管理者が連携し、河川利用者や来街者の健康増進、交流人口の増加、地域の防災力の向上を図る取組を推進するため、「板橋区かわまちづくり協議会」を設置しています。

③ 事業手法の検討

民間事業者のノウハウを活用した施設の整備及び活用を進めるため、Park-PFI などの様々な民間活力手法について、整備・維持管理運営両面において比較検討したうえで、導入する手法を決定します。

※Park-PFI

飲食店、売店等の公募対象公園施設の設置又は管理と、その周辺の道路、広場などの特定公園施設の整備、改修等を一体的に行う者を、公募により選定する制度

④ 今後のスケジュール

・令和4年度 第1期かわまちづくり整備設計

→ 令和7年度完成予定

・令和5年度 板橋区かわまちづくり基本構想策定

・令和6年度 板橋区かわまちづくり基本計画策定

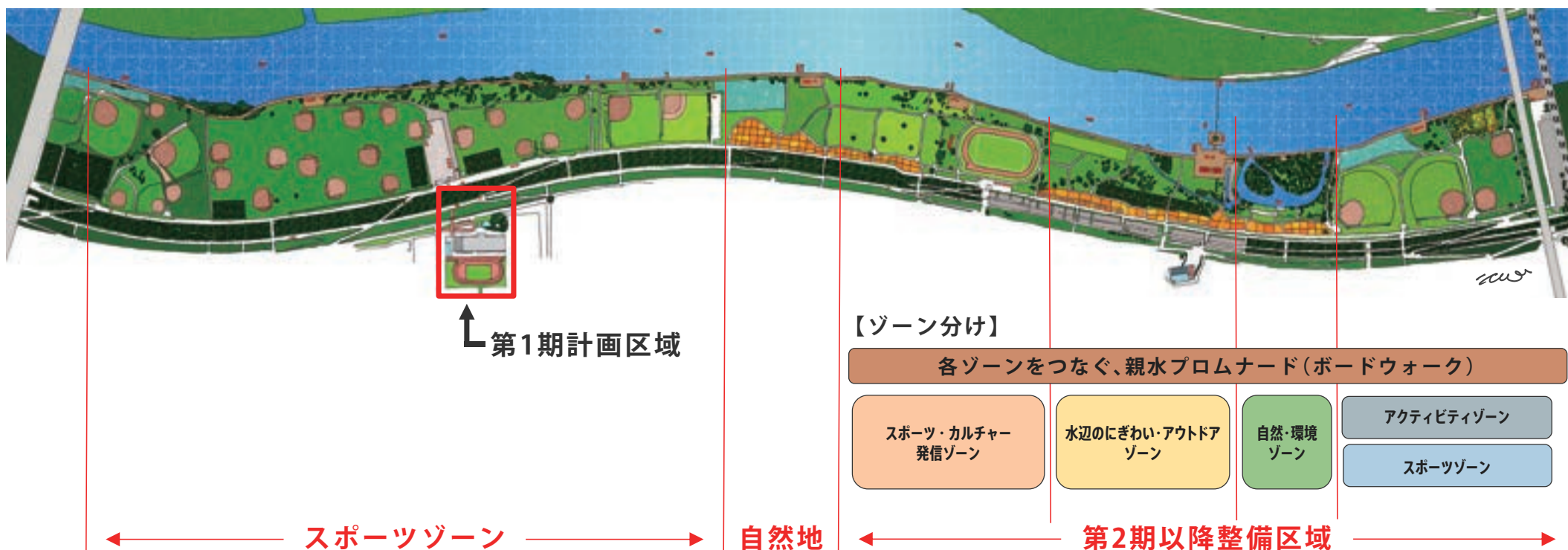
・令和7年度 第2期かわまちづくり整備設計

・令和8年度 第2期かわまちづくり工事

※ハード整備だけではなく、ソフト事業については、随時展開していきます。

⑥ 板橋区かわまちづくり基本構想の概要

① 対象区域イメージ図



※既存の野球場はそのまま活用します。

② 第1期かわまちづくり整備の概要(期間:令和4年度から7年度)

- ・荒川氾濫想定時の「緊急一時退避場所」となる新河岸陸上競技場から荒川の堤防上を笹目橋まで行き、浸水地域外に脱出できるよう、連絡通路等を整備します。
- ・連絡通路等の整備により、河川敷利用者の利便性・回遊性の向上につなげます。

③ 第2期以降かわまちづくり整備の概要(期間:令和7年度以降)

- ・第2期以降の概要については、本基本構想では8頁以降にイラスト等でイメージとしてお示しします。
- ・詳細については、令和6年度に策定する「板橋区かわまちづくり基本計画」で決定します。

7 第1期かわまちづくり整備（令和4年度から7年度）

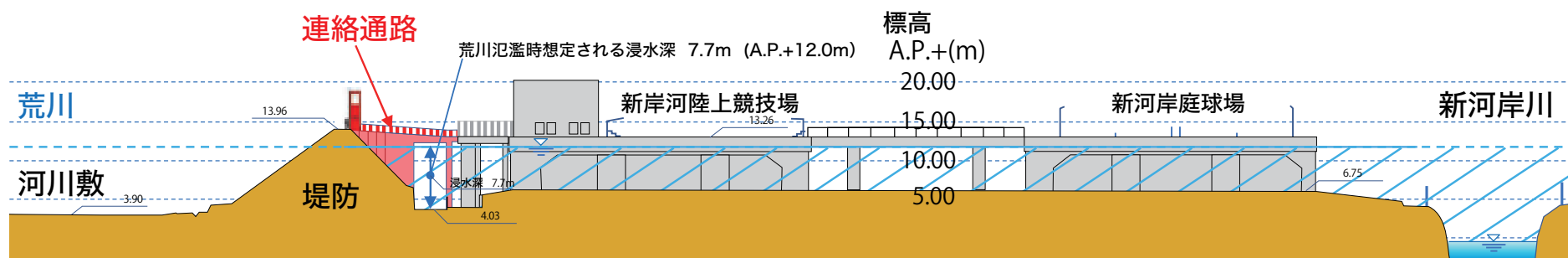
① 整備内容

新河岸陸上競技場から荒川の堤防を通り避難できるルート
を確保するため、連絡通路を整備します。

② 目的

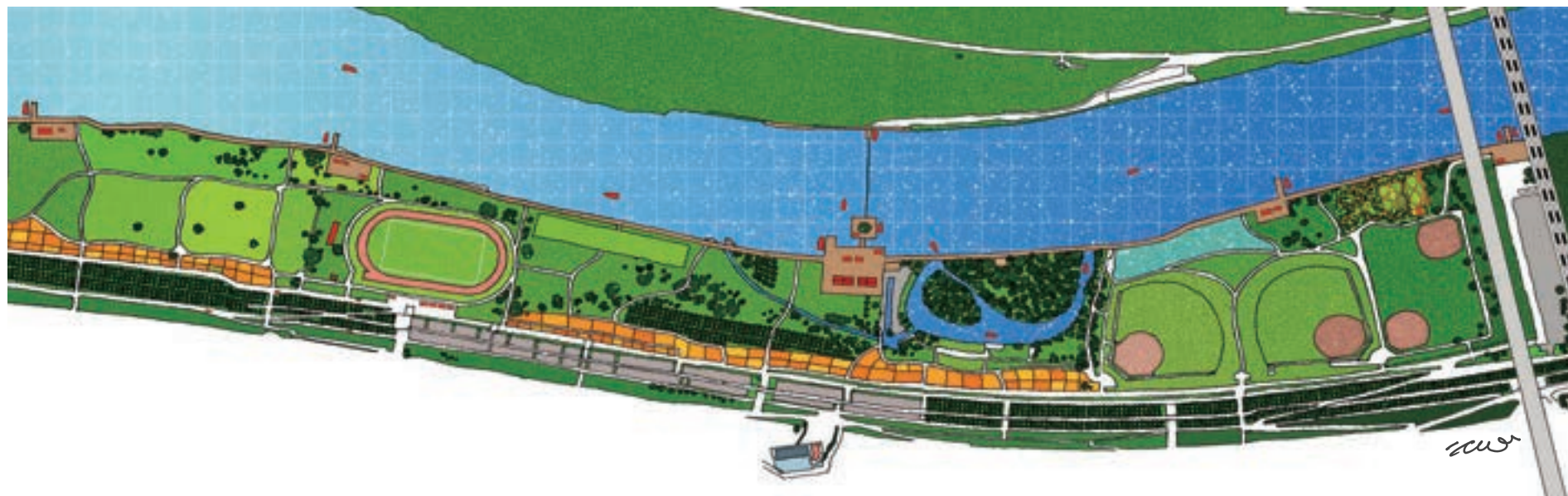
- ・河川敷利用者が新河岸陸上競技場管理棟の更衣室やトイレ等を活用することができるようになるなど、河川敷利用者の利便性・回遊性を向上させ、にぎわいを創出します。
- ・新河岸陸上競技場は、荒川の氾濫が想定される際の「緊急一時退避場所」となります。新河岸陸上競技場から連絡通路を通り、荒川の堤防上を笹目橋まで行き、浸水地域外に脱出することができます。

【連絡通路のイメージ】



8 第2期かわまちづくり整備(令和7年度以降) ※詳細は「板橋区かわまちづくり基本計画」で決定します。

① 全体整備イメージ図



各ゾーンをつなぐ、親水プロムナード(ボードウォーク)

スポーツ・カルチャー発信ゾーン

主な整備内容等

- ・ラグビー場
- ・音楽フェスやグランドゴルフ大会等ができる空間

水辺のにぎわい・アウトドアゾーン

主な整備内容等

- ・メイン広場(カフェ・レストラン等)
- ・親水広場
- ・キャンプ場

自然・環境ゾーン

- ・生物生態園の活用
- ・リサイクルプラザの活用

アクティビティゾーン

主な整備内容等
マウンテンバイクコース

スポーツゾーン



Design & Illustration by Eiji Mitooka + Don Design Associates

②「スポーツ・カルチャー発信ゾーン」のイメージ

みどりと水が豊かな河川環境でにぎわいを創出



③「水辺のにぎわい・アウトドアゾーン」のイメージ 親水広場



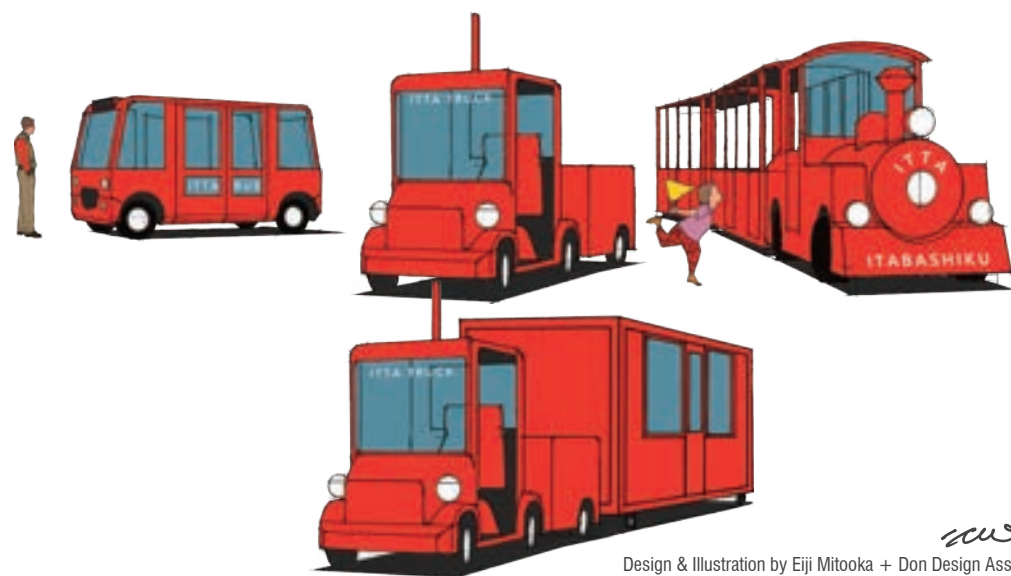
可動式コンテナの活用(メイン広場等で活用)



フローティングスペース(カフェスペース等)



河川敷内の移動手段(ITTA TRAIN など)

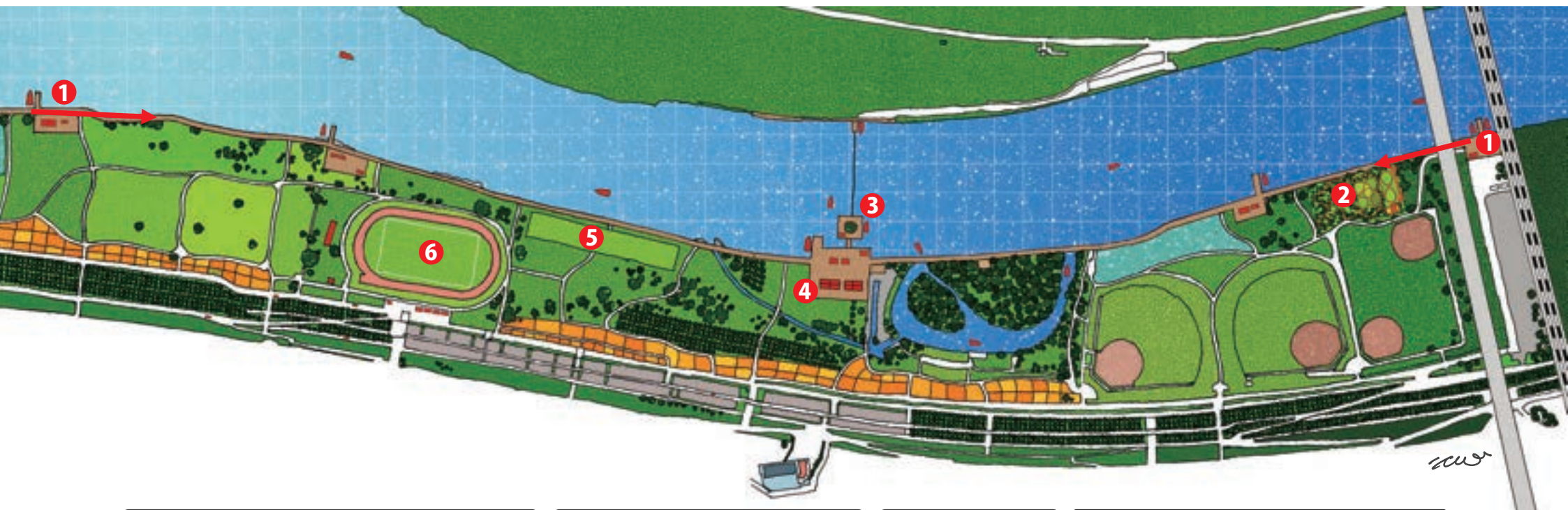


Design & Illustration by Eiji Mitooka + Don Design Associates

④ 第2期以降の整備の基本的考え方

各種整備事業については、河川管理施設に関わる整備については国が実施し、それ以外の整備は区が実施します。

国と区の役割分担を含め詳細については、「板橋区かわまちづくり基本計画」で決定します。



スポーツ・カルチャー発信ゾーン

水辺のにぎわい・アウトドアゾーン

自然・環境ゾーン

アクティビティゾーン

スポーツゾーン

音楽フェス等ができる空間
既存の空間を有効活用

⑥ ラグビー場
区が整備

⑤ キャンプ場
区が整備

③ フローティングレストラン(カフェ)
区が整備

② マウンテンバイクコース
区が整備

④ 親水広場(大型ボードウォーク)
国と区が協働

野球場

① 各ゾーンをつなぐ、親水プロムナード(ボードウォーク): 国と区が協働、区が維持管理

荒川河川敷(国土交通省の所有地を区が占用)

荒川河川敷(国土交通省所有地)

